

福部・国府合同地域振興会議
(ジオパークのさらなる取り組みに向けて)



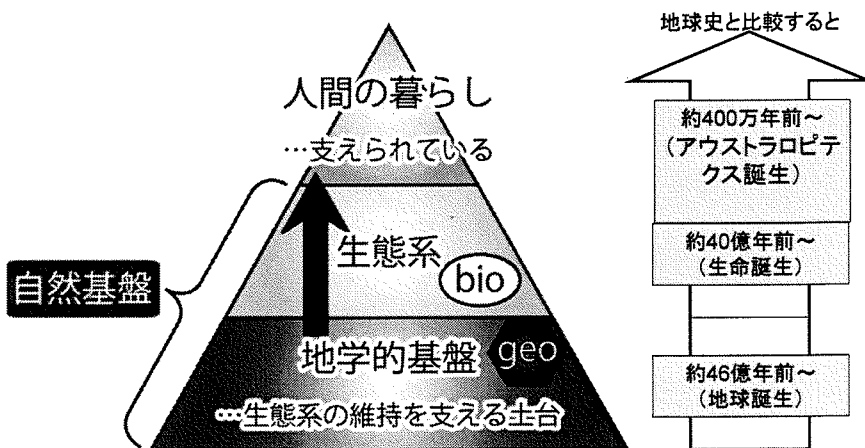
山陰海岸ジオパーク

鳥取砂丘・ジオパーク推進課長
漆原利明

1. ジオパークの概念図

ジオパーク「大地の公園」

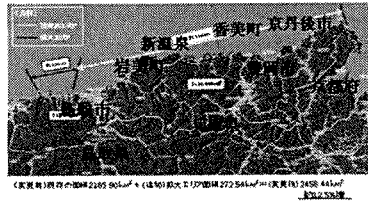
大地に親しみ、大地の成り立ちを知り、人間と地球の
これからの関係を考える。(日本ジオパーク委員会)



6.山陰海岸ジオパークの沿革について

年月日	対 応
2005.12	2005年度第2回因但県境自治体サミット(コリドー21) ・新温泉町及び香美町からジオパーク構想の調査研究が提起
2007.2.16	山陰海岸ジオパーク推進協議会設置
2008.12.8	日本ジオパークに認定
2010.10.4	世界ジオパークネットワーク加盟認定
2011.2.12	ギリシャ・レスボス島ジオパークとの姉妹提携締結
2013.5.10	推進協議会総会で鳥取市西部エリアまで拡大することを決定
2013.12.16	日本ジオパークに再認定(鳥取市西部エリアを含めて)
2014.9.23	世界ジオパークに再認定(鳥取市西部エリアを含めて)

山陰海岸ジオパーク エリア拡大イメージ図

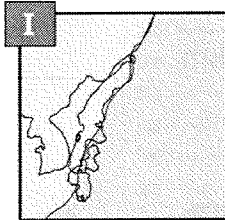


日本ジオパーク拡大審査結果(2013.12.16)

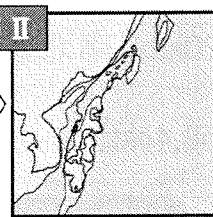
- ・エリア拡大は、ジオパークのテーマを補強し内容を豊かにするもの。
- ・拡大エリアには湧水を利用した生活文化、活断層地形と鳥取地震の災害遺構、鳥取砂丘から連続する砂丘地形がある。
- ・既にガイドの活動や新たなガイドの養成も行われており、拠点施設の整備計画もある。

7.山陰海岸ジオパークの特長について(地形・地質)

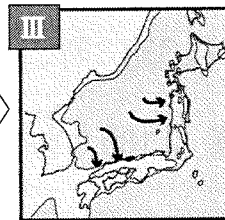
日本海形成前の大陸の時代
(古第三紀 7500-5000万年前)



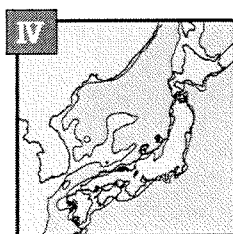
日本海形成へ向けた前駆的内陸盆地と
安山岩質マグマ活動の時代
(前期中新世 2500-1900万年前)



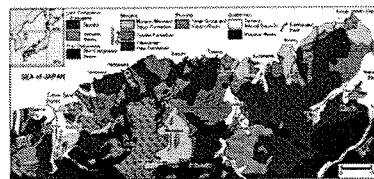
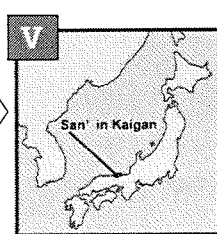
日本海形成と流紋岩質マグマ活動の
時代 (中期中新世 1900-1100万年前)



日本海成立後に引き続き火山活動の時代
(鮮新世 400-260万年前)



現在の地形形成と第四紀火山の時代
(第四紀 260万年前～)

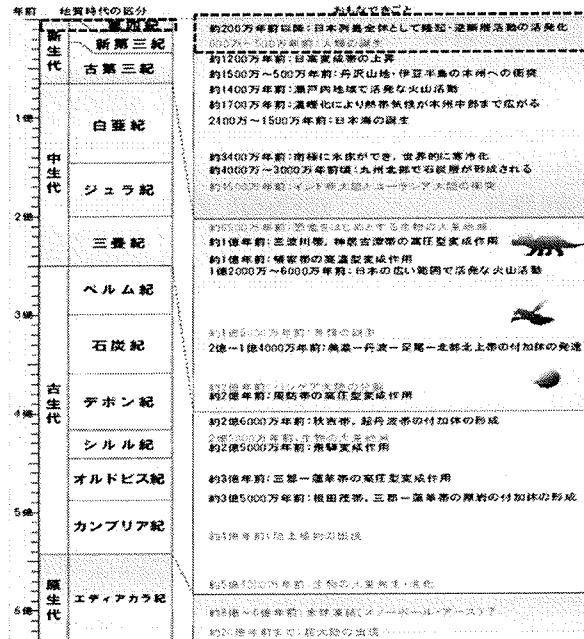


地質図

8

8

8.地質年代と山陰海岸ジオパーク（地形・地質）



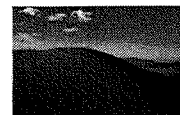
9.山陰海岸ジオパークの特長について（地形・地質）

【全体テーマ】

日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土と人々の暮らし

【地形・地質学的特徴】

(1) 日本海沿岸の多様な海岸地形



砂丘(鳥取砂丘)

(2) 日本海形成に関わる多様な火成岩・堆積岩の分布とそれらの岩石海岸での露出



岩石海岸(浦富海岸)

(3) 日本海形成後も引き続き火成活動による火山噴出物・火山地形



火山(神鍋火山)

10.特徴的なジオサイト(兵庫県豊岡市：玄武洞)

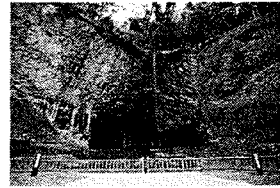
(4)国際的価値:松山基範博士による第四期における逆磁極期の発見

・京都大学教授松山基範博士
玄武洞の岩石の逆帯磁の発見

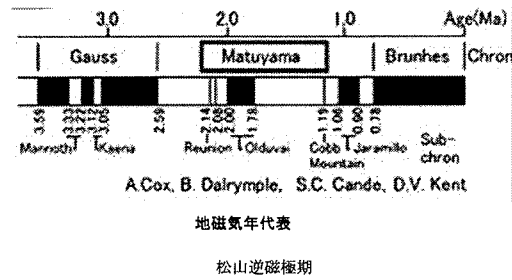
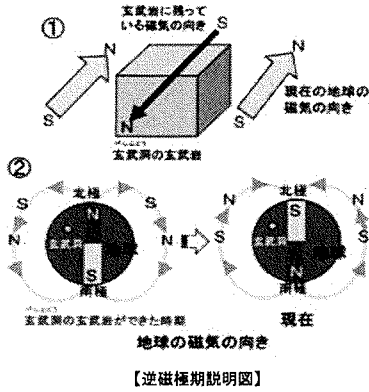
(1926年) = 松山逆磁極期
→ 第四期のはじまりの指標の1つ
→ プレートテクトニクス説の成立に大きく寄与



松山基範博士



玄武洞



11.山陰海岸ジオパークの特長について (地形・地質)

(5) 火成活動の影響を受けた豊富な温泉資源

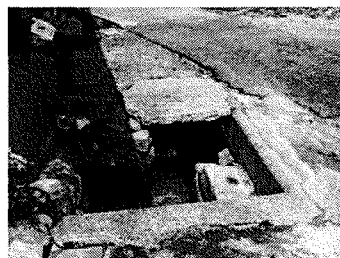


城崎温泉(豊岡市)

(6) 山陰海岸沿岸で生じる
第四紀地殻変動を示す活断層・海岸段丘



郷村断層(京丹後市)

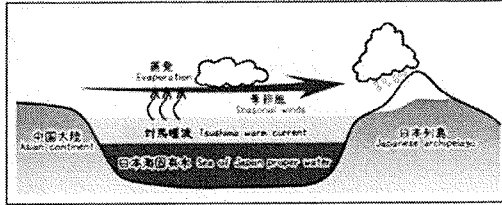


鹿野・吉岡断層(鳥取市)

12.山陰海岸ジオパークの概要について（気候・生態系）

(4) 気候

・冬期に日本海表層の水蒸気を多く含んだ北西季節風が、中国山地にあたり、降雪量が多い。

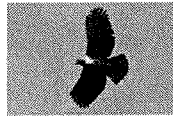


(5) 多様な生態系

・海岸線まで迫った急峻な地形と積雪の多さ 【雪のでき方】
→ ブナ林(標高150mでも)



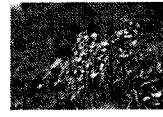
→ クマタカ、ハコネサンショウウオ、エビネ(標高の低い場所でも)



クマタカ



ハコネサンショウウオ

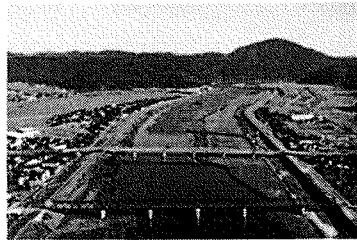


エビネ

ブナ林

13

・ラムサール条約登録湿地・潟湖
水辺の動植物が豊富



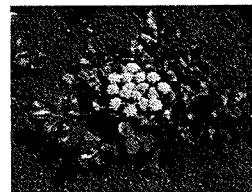
【円山川下流域】

ラムサール登録 湿地

・砂丘→コウボウムギ、ハマボウフウなどの大規模な海浜植生



コウボウムギ

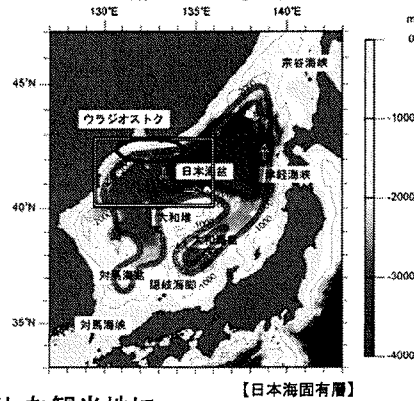


ハマボウフウ

13.山陰海岸ジオパークの特長について(気候・生態系)

- (1)山陰の大陸交易や海運の歴史
 - ・古代から大陸交流の要所
 - ・17世紀中頃から北前船の風待港に

- (2)日本海特有の水産物、景観、降雪、温泉などを活用した観光拠点
 - ・日本海固有冷水塊→ズワイガニなど寒海性魚介類多獲、ホタルイカの水揚げ日本一



- ・1963年山陰海岸国立公園に指定→海岸美・温泉保養・水産資源などを楽しむ観光地に

- ・冬期の降雪→兵庫県内陸部のスキー場

- ・木津、城崎、湯村、岩井、吉岡などの多数の温泉施設→観光拠点に



城崎温泉

15

14.山陰海岸ジオパークの概要について(地形と土地利用)

- (1) 人口
 - ・ 約40万人

- (2) 経済
 - ・地域の自然環境を活かした農林水産業と観光業が盛ん。

- ・特に、ズワイガニ漁とホタルイカ漁。



- ・但馬牛は、その肉質の良さから日本の有名和牛のほとんどにその血統が入っている。



- ・鳥取市は、域内唯一の特例市で、工業(製造業)が盛ん。

- ・豊かな自然や地域資源を活かし、域内年間17百万人の観光客の受け入れ。

16

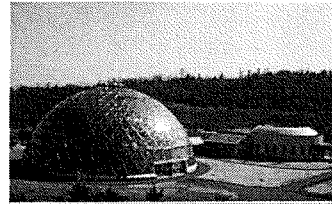
15.特徴的なジオサイト(地形と土地利用：乾燥地研究)

(3)鳥取砂丘から始まった乾燥地研究

・鳥取大学乾燥地研究センターは、砂丘地の農業利用研究から、世界の乾燥地での研究へと発展。国際協力として、砂漠地の農業研究、砂漠化阻止の研究を実施。

・遠山正瑛(鳥取大学名誉教授)は、中国内蒙古自治区の砂漠でポプラの植林に取り組み、その功績をたたえられ、中国政府から「友誼賞」、及び「マグサイサイ賞」を受賞。

・現在、鳥取大学乾燥地研究センターはグローバルCOE「乾燥地科学拠点の世界展開」を受け、世界に通用する人材の育成、世界最高水準の研究を実施。



鳥取大学乾燥地研究センターアリドドーム実験棟

16.山陰海岸ジオパークの特長について(地形と土地利用)

(5) 鳥取砂丘の草原化防止の取り組み

・鳥取大学の砂防林や砂丘地農業研究→

砂丘地の農業利用(らっきょう、二十世紀梨)の進展

・1990年頃、砂防林の成長や千代川からの流出土砂量の減少による草原化の進行→
・鳥取砂丘再生会議の設置と除草計画の策定→

除草運動が市民・県民運動として実施・定着

(6) 豊富な温泉資源の活用

・木津、城崎、湯村、岩井、吉岡及び浜村温泉は、伝統のある温泉地
・城崎温泉は、「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で2つ星
・泉温98度の湯村温泉は、料理や洗濯など、古くから生活にも利用
・温泉の分布は、活発な地震が起こる地域と一致



ラッキョウ畑



除草作業



湯村温泉(新温泉町)

17.山陰海岸ジオパークの特長について(地形と土地利用)

(1)リアス海岸→風待港(北前船の避難港)

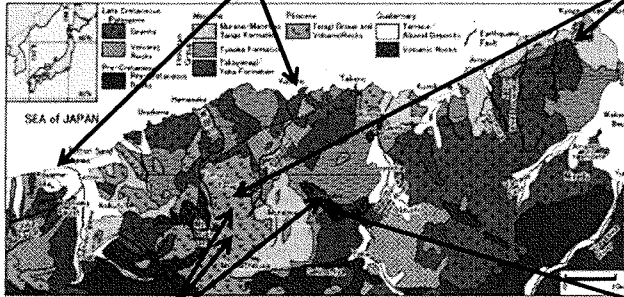


北前船

(2)北但層群・照来層群の地すべり地形、海岸段丘→棚田



たな田



(3)第四期火山神鍋山の比高100mのスコリア丘→多目的スポーツ
高原野菜



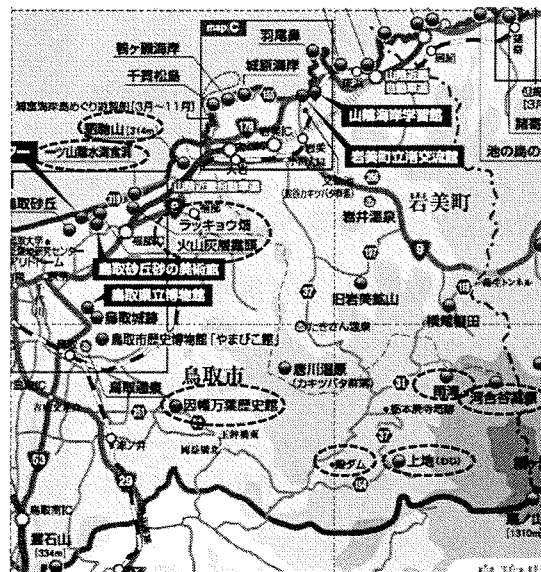
神鍋山



スキー場

(4)北但層群・照来層群の地すべり地形、狭隘な地形→スキー場、畜産業

18.福部町、国府町にある主なジオパークの見どころ

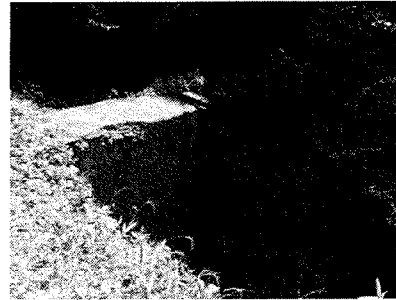


(山陰海岸ジオパークまるごと体感マップ)

19.ジオサイト名：砂丘【見どころ：多鯰ケ池】



多鯰ケ池



宿院義般の暗渠

★砂丘型に水をせき止めて作った「せき止湖」である。池の周辺は約3.4km。最深部は約17m。中国地方では最も深い池である。

★江戸時代末「宿院義般」が湯山地区(池)の干拓を目的に多鯰ケ池の水を利用するため、兵庫・生野銀山の坑道堀り職人を呼び寄せ、約1年有余で「暗渠掘削」に成功。湯山新田干拓することができ、多鯰ケ池の水は今でも農業用水として利用されている。

20.ジオサイト名：上地【見どころ：京ヶ原用水路・棚田】



京ヶ原用水路・棚田

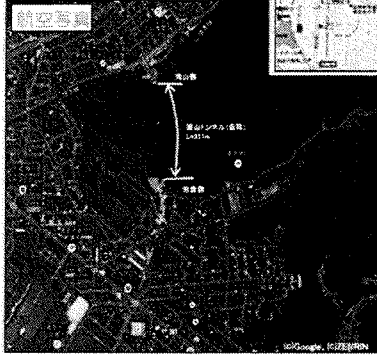
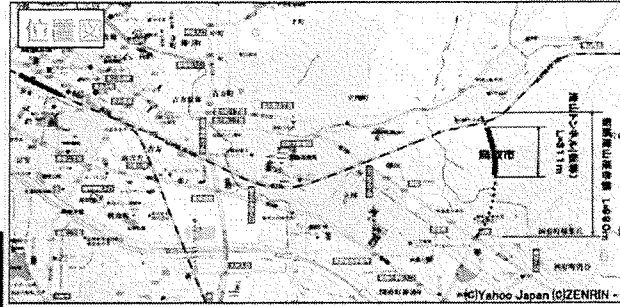


清酒【京ヶ原】

★急峻な斜面につくられた棚田。用水路は、約120年前に山の斜面を約4kmにわたり掘削してつくられた。この棚田と用水路は、現在もボランティアによって保全活動が行われている。

★プロジェクト京ヶ原による有機酒米による日本酒づくり。地元上地集落の住民によるむらづくり活動の賜物。

21.街路滝山桜谷線の効果について



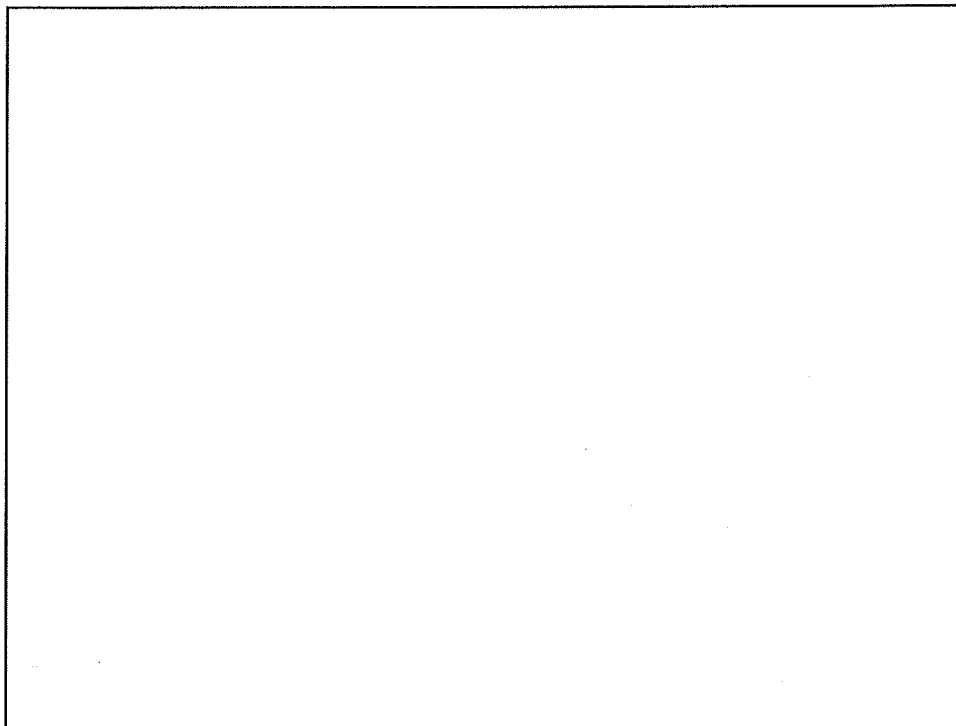
★滝山トンネルによって、福部地域と国府地域のつながりで、地域活性化に繋がるか？
 →人・モノの交流
 →災害時の交通確保

21.地元の発展のために（ジオパークによる地域づくり）

- (1)今、自分たちの住んでいる場所の立地は？
- (2)場所の由来・歴史は？
- (3)地形・地質学的に分析
- (4)地理学的に分析
- (5)地元ならではのストーリーを作成
- (6)他の人に伝える



自分の住んでいる地域住民に誇りが生まれる
 未来を担う子どもたちは、必ず、将来も故郷に残る。



山陰海岸ジオパーク

ご清聴ありがとうございました。

